



エコアクション21
®環境省
認証番号 0007685

環境経営レポート 2024

(対象期間：2023年4月～2024年3月)



Ⓚ 九州高圧コンクリート工業株式会社

九電  グループ
ずっと先まで、明るくしたい。

目次

1. トップメッセージ	1
2. 会社概要	1
3. 経営理念	3
4. 環境経営方針	3
5. 環境経営推進体制	4
6. マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針	5
7. 中長期目標	
(1) 中長期目標(2021年～2023年)	7
(2) 二酸化炭素排出量の推移	7
8. 2023年度環境活動実績	
(1) 活動内容	8
(2) 環境経営目標と実績並びに次年度の取り組み	9
(3) 事業活動による環境負荷量	11
(4) 環境活動コスト	12
(5) 会社収支への貢献	12
(6) 環境取り組みの成果	12
(7) 地域貢献活動	13
(8) EV車両の導入	13
(9) 環境関連法規の遵守状況	14
9. 産業廃棄物処理業に関する情報	14
10. 2023年度環境経営目標	
(1) 環境経営目標	15
(2) 活動内容	15
11. 代表者による全体評価と見直し	16
12. 主な受賞歴	16

1. トップメッセージ

近年、極端な猛暑や集中豪雨をはじめとした異常気象によって甚大な自然災害が発生するなど、私たちの生活は、すでに気候変動の影響を受け始めています。

そのような中、当社は 2011 年のエコアクション 21 認定制度への加入を契機に環境経営活動への取り組みを本格化しました。脱炭素社会に向けて温室効果ガスを実質ゼロにするために、企業や個人が日々使うエネルギーを見直す重要な使命があると考えております。活動開始から 13 年ほど経過しましたが、着実に成果を上げており、従業員一人ひとりに環境負荷低減の意識が根付いてきたと感じています。



また、私たちの主力製品であるポールや地中製品は電力通信などの社会インフラ分野で、パイルは様々な建築物の基礎として使用されており、当社事業は、社会生活や産業活動における縁の下の力持ち的な存在であると自負しております。今後も 3R の一層の強化はもとより、環境負荷がより小さなコンクリートの開発やコンクリートに CO₂ を封じ込める技術の確立などを通じて、カーボンニュートラルに貢献していきたいと存じます。

「経済性に優れ、確かな技術と安心できる製品」に加え、「環境に配慮した製品」を目指し、あらゆるステークホルダーへの信頼と期待に応えていく所存です。

代表取締役社長 大坪 武弘

2. 会社概要

基本情報

■事業者名 九州高圧コンクリート工業株式会社 ■代表者 大坪 武弘
■資本金 2億4千万円 ■設立年月日 1957年11月5日

事業内容

■コンクリートポール及びコンクリートパイル・その他コンクリート製品の生産並びに販売
■土木建築工事の設計・施工並びに監督 ■産業廃棄物のリサイクル及び中間処理業(破碎)
■既設コンクリート構造物調査・診断に関する事業

事業所

■本社 福岡市南区向野1丁目13番14号
■熊本工場 菊池市旭志川辺1349番地の4
■豊前工場 豊前市大字八屋2544番地の61
■鹿児島営業所 鹿児島市南林寺町26番4号

事業の規模

■売上高 75.15億円
■生産量 42,732t
■工事件数 305件
■産業廃棄物処理量 11,669t
■最終処分量 0t

許可内容

■建設業 土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、塗装工事業、電気工事業
■産業廃棄物処理業 中間処理(破碎): ガラスくず等(自動車等破碎物を除く)、がれき類

沿革

1957年11月	設立	2007年11月	創立50周年
1958年9月	九州電力㈱にポール納入開始	2011年11月	エコアクション21認証取得
1958年10月	豊前工場竣工	2012年9月	再生骨材製造プラント設置(熊本)
1970年4月	JR、NTTにポール納入開始	2012年11月	再生骨材使用ポール生産開始(熊本)
1981年9月	熊本工場竣工	2015年1月	環境衛生資材(床カラッと)の販売開始
1998年2月	廃品コンクリートポールのリサイクル事業開始	2022年5月	福岡大学他2社との共同研究開始
2001年1月	ISO9001品質システム認証取得	2022年6月	新横拘束強化コン柱の九州電力送配電㈱形式申請承認
2007年7月	新JISマーク取得(熊本)	2023年4月	長崎大学との共同研究開始

※ エコアクション 21 認証・登録範囲は、全組織、全事業活動

主な事業

■ポール事業

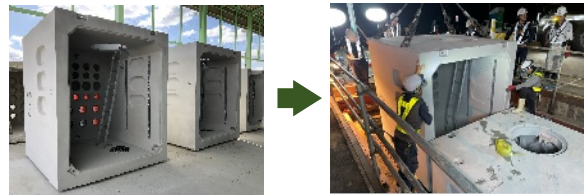
(製造、販売、設計、施工、劣化診断・補修工事等)



コンクリートポール・カラーポール
(九州電力用、NTT用、電車用)
分割式継コンクリートポール
(照明用、防球ネット用、アンテナ用)

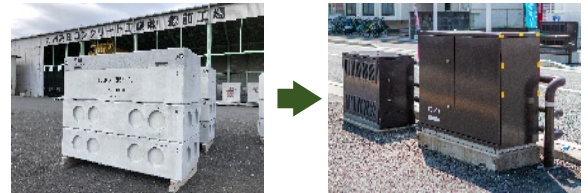
■地中線事業

(製造、販売、設計、施工、設備の点検・清掃等)



[マンホール]

[マンホール設置工事]



[ハンドホール(機器用)]

[設置後]

■パイロ事業

(製造、販売、設計、施工等)



[杭打ち工事]

■産業廃棄物処理事業

(産業廃棄物のリサイクル及び中間処理)



[廃品ポールの破碎処理]

収集した産業廃棄物(廃品ポール)の
リサイクル促進

◇循環型社会への貢献(資源循環)

○環境衛生資材(リユース)

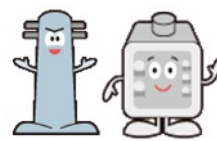
*コンクリートスラッジを有効活用した商品
(殺菌力、吸水力、脱臭力等に効果あり)



[床カラッと12]

○リサイクル製品

*自社製品原料に再生骨材を一部使用



[九電向けポール
九電向けマンホール]



[ポール付属品]

○売却



路盤材
再生砕砂、再生砕石
コンクリートスラッジ



[鉄筋]

分別

3. 経営理念

経営理念

「ありがとうと言われる会社になろう」

社 是

- ・ 事業を通じて、社会に貢献します。
- ・ 事業の安定した成長と健全な発展に努めます。
- ・ 従業員の生活の安定と向上を図ります。

行動規範

- 私達は
- ・ 自分の仕事に対して強い責任を持ち、誠実で誰からも信頼されるよう行動します。
 - ・ 品質、価格、納期面で競争力を確保し続けるとともに、お客さまに喜ばれる製品・サービスを創造し提供します。
 - ・ コミュニケーション豊かな企業風土を醸成し、働き甲斐を感じハラスメントの無い明るく楽しい職場を創ります。
 - ・ 何事にも前向きに取り組み、失敗を恐れず果敢に挑戦します。
 - ・ 慣例にとらわれず常に柔軟に考え、知恵を出し合います。
 - ・ 常にお互いの人格や価値観、立場を尊重し、真剣に向き合います。
 - ・ ルール・規則、作業手順を遵守し、安全第一を徹底します。
 - ・ 公平で公正、かつ透明性の高い企業活動を通じ、法令遵守に努めます。
 - ・ 企業活動を通じて社会の健全な発展に寄与し、信頼される存在であり続けます。
 - ・ 環境保全の重要性を認識し、事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組み、環境に優しい企業を目指します。

4. 環境経営方針

環境理念

九州高圧コンクリート工業株式会社は、コンクリート製品の生産・販売を中核とする全ての事業活動が地球環境に影響を与えていることを自覚し、地域環境との調和を目指して事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組みます。

基本指針

1. 環境活動として、次の重要テーマに取り組みます。
 - (1) 温室効果ガス排出量の削減
 - (2) 廃棄物量の削減・リサイクルの推進
 - (3) 水使用量の削減
 - (4) 化学物質使用量の削減
 - (5) グリーン調達推進
2. 環境関連法規等を遵守します。
3. 環境経営目標及び環境経営計画を策定し、継続的に改善を行います。
4. 環境経営を通じて、SDGsの目標達成に向けた活動を積極的に行います。
5. 環境経営方針を全社員に周知し、社員一丸となった環境活動を推進します。
6. 環境経営レポートを作成、公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。

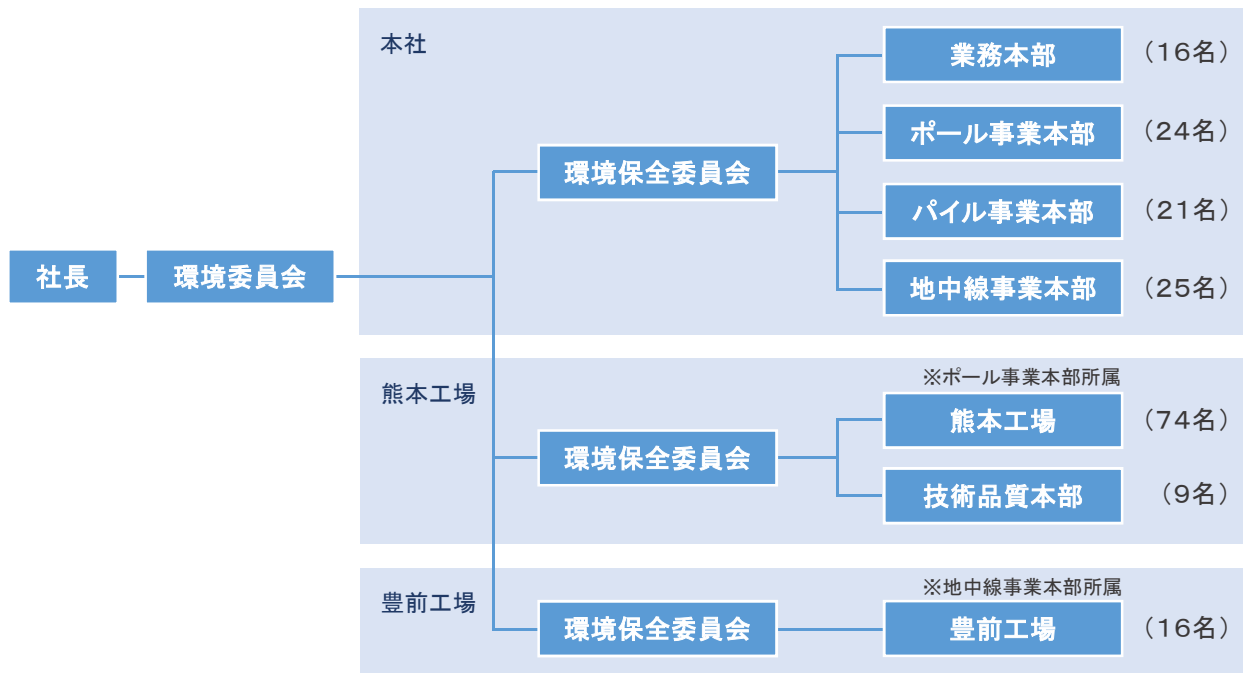
制定2010年12月6日 改定2021年7月1日

九州高圧コンクリート工業株式会社 代表取締役社長 大坪 武弘

5. 環境経営推進体制

[2024年7月]

従業員: 186名



(鹿児島営業所はパイル事業本部に含む)

組織	責任者	主な役割
全社	代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の制定、誓約及び従業員への周知 環境マネジメントシステムの統括 環境管理責任者の任命 環境経営資源の準備 全体の取り組み状況の評価と見直し、指示 経営における課題のチャンスの明確化 等
	環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 全社における環境活動の構築・運用責任者 環境委員会の委員長
	環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営マニュアルの策定・改訂 環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画の策定・改訂 公害防止に関する対応事項の策定 省エネ法に関する事項 経営資源の配分策定 等
各事業所	環境保全委員長	<ul style="list-style-type: none"> 事業所における環境活動の構築・運用責任者 環境保全委員会の委員長
	環境保全委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営目標及び環境経営計画の啓蒙・実施 公害防止に関する対応事項の実施 環境活動の定期的な確認・評価 評価に基づく改善案の検討・実施 緊急事態への対応 省エネ法に関する事項 外部コミュニケーションへの記録 等
事務局	業務本部	<ul style="list-style-type: none"> 環境への負荷、取り組みの自己チェック取りまとめ 環境経営目標、環境改善項目の取りまとめ 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び情報収集 環境改善計画書兼進捗管理表による状況報告及び評価 環境経営レポートの作成 等
全従業員	—	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針、環境目標に沿った積極的な環境活動への参画 等

6. マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針

(1) 方針 親会社(九州電力株式会社)がサステナビリティ経営を目指す「サステナビリティ基本方針」を定めたことに呼応して、2022 年度より当社版マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針を策定し、各種取り組みを実施

(2) マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針 (※重要項目抜粋)

・マテリアリティ … サステナビリティ経営を進める上での重要課題
 ・中期 ESG 推進方針 … マテリアリティの具体的な取り組みの方向性を整理

① 脱炭素社会の牽引：2050 年カーボンマイナスの実現 (マテリアリティ項目)

マテリアリティ主要課題		中期 ESG 推進方針			
		取り組み内容 (P)	実施状況 (D)	評価 (C)	2024 年度 ESG 推進計画 (A)
電源の低・脱炭素化 (系統)	配電用品の低炭素化	コンクリートの低炭素化推進 ①CO ₂ 吸収固定可能なコンクリート製品開発 (コンクリートボール含む)	①他社と亜硝酸塩混入によるコンクリートへの CO ₂ 吸着量の最大化研究	①エビデンス確立のための研究継続	①配合設計や耐久性の定量評価実施
	製造設備	製造工程における熱源等の電化推進 ①工場に適した電化動向調査・検討 (重油等化石燃料による熱源・動力源代替 → 例: 重油ボイラのドラム回収等)	①重油ボイラのドラム回収について、九電総研と廃熱回収型蒸気発生ヒートポンプ 開発動向等を調査	①ヒートポンプシステムの能力から複数台必要 → 採用不可 富士電機製ヒートポンプシステムの開発動向等を調査	①廃熱回収型蒸気発生ヒートポンプの開発動向等調査を継続
電化の推進	業務設備	社屋、福利厚生施設の電化推進 ①社有設備について老朽設備更新時に高効率なオール電化機器を採用	①オール電化採用 (福利厚生施設) 福岡寮 (20 年 10 月)、熊本工場食堂 (21 年 4 月)	①維持継続	①新設、設備更新時の電化実施
	運輸	リース車の EV 化 (PHEV・EV) ①リース車の EV 化推進 ②EV 車導入のための充電設備の設置 ③リース車の保有台数削減	①EV (PHEV) 車 2 台導入 (8 月、3 月) ②普通充電器 2 台設置 (9 月、3 月) ③リース車 1 台削減	①計画どおり導入。EV (PHEV) 車の利用促進が必要 ②計画どおり設置 ③EV 化による費用増に対応するためリース車保有台数の削減が必要	①EV (PHEV) 車 3 台導入。全社計画の詳細を見直し ②普通充電器 1 台増設 ③リース車の保有台数削減 (EV 化による費用増加の原資確保)
	省エネの推進	製造工場・事業所における省エネの推進 ①製造設備・業務設備の運用における省エネの推進 (熱源の運用変更、未使用時の停止等) ②老朽化設備の高効率機器への更新 (空調・コンプレッサの高効率化、照明の LED 化等) ③エネルギー使用状況管理、省エネ効果量の見える化と検証 事業所における省エネ・省資源活動の推進 ①事業所建屋における継続可能な省エネルギー活動の実践	①製造設備等、未使用時の停止徹底、製造ラインのエア・漏れ修理実施の調査 重油ボイラの代替 → LPG・LNG 貫流ボイラ ②建屋内 (ボイラ室、クレーン等) 照明 LED 化 (90%) ③テラモトコントローラで、電力使用状況の見える化実施	①製造設備等、未使用時の停止継続 LNG 導管への近傍への施設により費用対効果が出る可能性あり ②高効率設備導入、建屋内照明 LED 化継続 ③夏季の電力使用量の削減が課題	①製造設備等、未使用時の停止継続 ②更新時に高効率設備導入、建屋内照明 LED 化継続 ③電力使用状況管理・改善継続 (再エネ電力への切替え検討等)
環境負荷の低減	循環型社会形成	産業廃棄物の適正管理・処理 ①リサイクル活動 (スラッジの再利用…床カッター、路盤材、エコタンカル (EcsP) として販売等) の採算性等を踏まえながら事業拡大を指向	①リサイクル活動 ・床カッター … 販売量減少 (酪農家の飼料・肥料高騰の影響) ・路盤材 … スラッジ混入継続 (混入率 15%) ・エコタンカル (EcsP) … 他社等へ技術調査実施	①リサイクル活動 ・床カッター … 当面、販売量停滞の見通し (飼料・肥料高騰継続) ・路盤材 … スラッジ混入率維持 ・エコタンカル (EcsP) … 製造コスト低減による採算性確保が課題	①リサイクル活動 ・床カッター … 販売継続 (酪農家の動向見守る) ・路盤材 … スラッジ混入継続 ・エコタンカル (EcsP) … 製造事業化検討を継続
		グリーン調達 ①グリーン調達の推進 (23 年度目標調達率: 86.0%)	①グリーン調達率 99.3%	①目標を上回る水準で推移	①グリーン製品の調達拡大
	環境管理の推進	環境マネジメントシステムの自立運用 ①環境活動の確実かつ効果的な実施 環境目標を確実に達成するため、下記委員会・監査を通じて、年度環境計画・課題対応等の進捗状況を確認 〔環境委員会 (2 回/年)、環境保全委員会 (本社: 2 回/年、工場: 4 回/年)、内部監査 (1 回/年)〕	①環境活動の確実かつ効果的な実施 ・EA21 の更新審査受審 (8 月) ・環境委員会開催 (6 月、11 月、3 月) ・環境保全委員会開催 (本社: 8 月、11 月、2 月 工場: 6 月、9 月、1 月、3 月) ・内部監査実施 (7 月)	①環境活動の確実かつ効果的な実施 ・EA21 審査結果…「適合」評価 ・環境活動を確実に実施し、年度目標の達成が必要	①環境活動の確実かつ効果的な実施・環境活動の確実な実施により EA21 の認証維持
		環境教育の実施及び環境情報の共有化 ①エコアクション 21「環境経営レポート」の作成と環境教育の実施 ②「九電グループ 環境担当者連絡会議」を活用した法令等情報収集、知見の共有	①「環境経営レポート」作成 (23 年 8 月) 全従業員への環境教育の実施 ②グループ 会社環境担当者連絡会議出席	①「環境経営レポート大賞・九州」は選外、内容の一層の充実が必要 ②グループ 会社環境担当者連絡会議に参加し、関連法令・他社の環境活動等の情報収集を継続	①エコアクション 21「環境経営レポート」の作成と全従業員への環境教育継続 ②グループ 会社環境担当者連絡会議への参加継続

② エネルギーサービスの高度化 (マテリアリティ項目)

マテリアリティ主要課題		中期 ESG 推進方針			
		取り組み内容 (P)	実施状況 (D)	評価 (C)	2024 年度 ESG 推進計画 (A)
エネルギーの安定供給	エネルギー安定供給に資する、配電用ポールの診断・補修技術の高度化	①配電線支持物の診断・補修・補強技術の高度化 (寿命延伸化)	①コン柱劣化メカニズム解明・取換基準策定に関する共同研究 (九電総研) 及び補修技術の高度化に関する共同研究 (九電送配)	①エビデンス確立のため共同研究を継続	①共同研究継続
		②災害に強い (衝撃に強く倒れない) コンクリートボールの開発	②耐衝撃性能を有するポリウレタン樹脂に関する技術調査、同樹脂を塗装したコン柱の試験実施	②塗装による耐衝撃性向上は不明	②ポリウレタン樹脂を含め他の補強方法を検討

7. 中長期目標

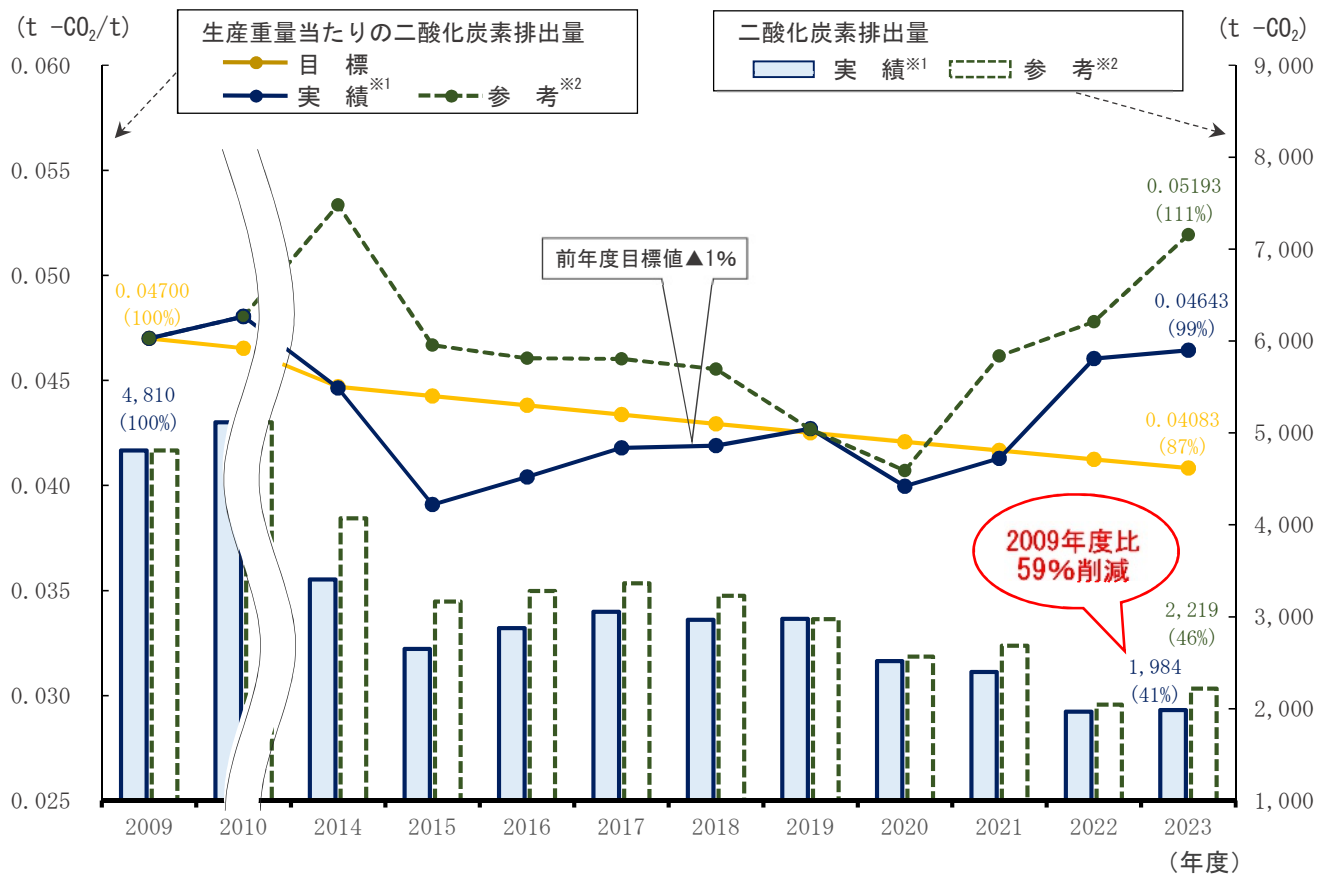
(1) 中長期目標（2021年度～2023年度）

- ・二酸化炭素排出量 … 2009年度を基準とし、前年度目標値から毎年1%削減
- ・産業廃棄物リサイクル率 … 前年度目標値を継続
- ・水使用量 … 2009年度を基準とし、前年度目標値から毎年1%削減
- ・事務用品グリーン調達率 … 前年度目標値を継続

項目		(基準年)	(参考)	(中長期目標)		
		2009年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量 (t-CO ₂ /t)	目標	-	0.04208	0.04166	0.04124	0.04083
	実績 ^{※1}	0.04700	0.03995	0.04129	0.04603	0.04643
産業廃棄物 リサイクル率(%)	目標	-	96.0	96.0	96.0	96.0
	実績(製造業)	96.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	実績(建設業)	-	99.9	99.9	100.0	100.0
水使用量(m ³ /t)	目標	-	0.75	0.74	0.74	0.73
	実績	0.84	0.65	0.63	0.93	0.97
事務用品 グリーン調達率(%)	目標	-	86.0	86.0	86.0	86.0
	実績	63.0	95.6	94.8	92.9	99.3

- ・※1は、EA21ガイドライン2017に従い九州電力の2008年度調整後排出係数(0.348 kg-CO₂/kWh)を使用
- ・tは生産重量を示す

(2) 二酸化炭素排出量の推移（2009年度を基準年とする）



- ・※1は、EA21ガイドライン2017に従い九州電力の2008年度調整後排出係数(0.348kg-CO₂/kWh)を使用
- ・※2は、九州電力の各年度の調整後排出係数を使用
- ・建設業の二酸化炭素排出量は除く
- ・()は対基準年度比を示す

(参考)

年度	2009	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
生産重量(t)	102,343 (100%)	76,296 (75%)	67,823 (66%)	71,232 (70%)	73,097 (71%)	70,853 (69%)	69,726 (68%)	63,046 (62%)	58,140 (57%)	42,771 (42%)	42,732 (43%)
調整後排出係数 (kg-CO ₂ /kWh)	補正值 ^{※1} 参考 ^{※2} 0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348
	-	0.617	0.598	0.528	0.483	0.463	0.347	0.371	0.480	0.389	0.475

8. 2023年度環境活動実績

(1) 2023年度活動内容

環境活動方針	主な取り組み内容	関連SDGs*
地球環境問題への取り組み	事業所における省エネ・省資源活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季・冬季における省エネルギー推進の取り組み ・場内設備のエアリー漏れ箇所継続補修 ・高効率機器の計画的更新 (ガス炊き式小型貫流ボイラー導入検討) 	
	運輸面でのCO₂削減推進 <ul style="list-style-type: none"> ・稼働率把握による社有車適正保有台数への取り組み(45台→44台) ・EV充電設備(2台)及びPHEV車導入(2台) 	
循環型社会形成への取り組み	廃棄物のゼロエミッション活動の継続的な展開 <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営で発生した産業廃棄物の適切な分別 ・受託回収した産業廃棄物(廃品コンクリートポール)の適正な管理・処理 ・ペーパーレス化の推進等による紙資源の節減(ペーパーレス会議実施) ・機密文書の契約業者によるリサイクル処理 ・環境衛生資材「床カラッと」の製造・販売 ・スラッジの再生路盤材原料としての資源活用 	
	グリーン調達 <ul style="list-style-type: none"> ・事務用品・建設資材の積極的なグリーン商品購入と購入実績の確実な把握 	
地域環境の保全	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・PRTR法に基づいた化学物質の適切な管理 ・取扱量1t超の物質を届出 ・環境保全設備の適切な運用、維持管理 	
社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・環境経営レポート作成、応募、公開 (活動の社外PRや採用活動、社内教育として活用) ・エコアクション21 オブザイヤー2023 環境経営レポート部門「優良賞」受賞 	
	地域に密着した環境活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・事業所周辺の清掃活動(本社：毎週、工場：1回/年) ・違反広告物撤去活動(1回/年) ・九電グループ4社合同地域清掃活動 	
環境管理の推進	環境マネジメントシステムの自立運用 <ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会開催(2回/年) ・環境保全委員会開催(本社：2回/年、工場：4回/年) ・内部監査実施 	
	環境教育の実施及び環境情報の共有化 <ul style="list-style-type: none"> ・環境の情勢変化に対応した環境教育実施 (カーボンニュートラル実現への知識共有、SDGsの理解・浸透) ・九電グループ取り組み活動への参加推進 ・「九電グループ環境経営推進部会」を活用した情報収集、知見共有の実施 	

※ SDGsと2023年度活動内容との関連性を表示

(2) 2023年度環境経営目標と実績並びに次年度の取り組み ~PDCAを回す~

目標項目 (P)	主な取り組み (D)	目標	実績	達成度 %	参 考		評 価 (C) 評価区分 A:達成 B:やや不足(90%以上達成) C:未達	次年度の取り組みへの展開 (A)	
					基準年度比 (基準年度) %	前年度比 (2023年度) %			
【製造業】									
オフィス電力 使用量削減	・空調機器の適正温度管理 ・クールビズ・ウォームビズの取り組み ・使用していないエリアの電源OFF	7.66 kWh/m ² 以下	8.72 kWh/m ²	86.2	93.2 (2009)	100.0	C	・猛暑日対策や新型コロナ感染予防として実施した時差出勤や室内換気により空調機器の使用が増加 ・クールビズ、ウォームビズ等、省電力の取り組みは定着	・安全面・健康面に配慮しながら省電力の取り組みを継続 ・夏季・冬季における節電への取り組みを継続
工場等の電力 使用量削減	・設備等のエアリーク箇所の総点検 ・高効率機器の計画的更新	42.2 kWh/t 以下	43.3 kWh/t	97.4	133.7 (2009)	100.7	B	・主力製品の受注減少により生産重量当たりの電力使用量増加 ・エアリーク量を削減し消費電力を抑制 ・高効率機器への更新や節電への取り組みは定着	・エアリーク抑制の取り組みを継続 ・高効率機器(空調機器・照明設備等)の計画的更新を継続
低公害車の導入	・リース車EV導入計画策定 ・充電設備(充電用スタンド)を手配	71.0 %以上	88.4 %	124.5	124.5 (2009)	97.2	A	・EV車両「PHEV」(2台)とEV充電設備(2台)を導入し、計画どおり進捗	・費用増に対応するため、リース車保有台数を削減 ・車両計画に基づき、計画的な切替を継続
ガソリン 消費率向上	・「エコドライブ10のすすめ」の継続 ・TV会議を活用した事業所間移動の削減	13.5 km/ℓ以上	14.2 km/ℓ	105.5	101.8 (2010)	98.3	A	・エコドライブの取り組みは定着 ・TV会議を活用した取り組みは定着(CO ₂ 排出量・交通費経費を抑制)	・「エコドライブ10のすすめ」の確実な実施 ・TV会議を活用した事業所間・外部移動(車両移動)削減の取り組みを継続
A重油 使用量削減	・蒸気配管・バルブ等の断熱強化による熱ロス抑制対策の実施 ・重油ボイラーのガス炊き化を検討	9.70 ℓ/t 以下	9.84 ℓ/t	98.3	82.0 (2009)	100.9	B	・主力製品の受注減少により生産重量当たりのA重油使用量増加 ・熱ロスを削減しA重油使用量を抑制 ・重油ボイラーの代替として、ガス炊き式小型貫流ボイラー導入検討	・熱(蒸気)漏れ、配管等整備対策の継続実施 ・重油ボイラー代替→ガス炊き式小型貫流ボイラー導入検討を継続
産業廃棄物 リサイクル率向上	・分別の徹底 ・再生を前提とした取引先を選定	96.0 %以上	100.0 %	104.2	104.4 (2010)	100.0	A	・分別やリサイクルの取り組みは定着	・適切な管理・分別によるリサイクル率維持の取り組みを継続
古紙 リサイクル率100%	・分別の徹底 ・回収BOXへの古紙回収	100.0 %	100.0 %	100.0	100.0 (2009)	100.0	A	・分別や古紙回収の取り組みは定着	・分別を徹底し、リサイクルの取り組みを継続
用紙 使用量削減	・両面コピー、裏面使用、FAX ペーパーレス化の推進 ・ペーパーレス会議の推進	956 枚/人以下	617 枚/人	135.5	62.7 (2010)	90.4	A	・両面コピー・裏面利用等が進み、資源有効活用の意識が定着 ・コピー用紙使用量削減のため、ペーパーレス会議が定着	・用紙使用量削減の取り組みを継続 ・DocuWorksソフトウェア活用によるペーパーレス化の推進
オフィス水 使用量削減	・節水の推進 ・節水ポスター掲示、子メーター管理	0.53 m ³ /人以下	0.42 m ³ /人	122.3	107.5 (2009)	104.0	A	・節水の取り組みは定着	・水使用量削減の取り組みを継続
工場等の水 使用量削減	・工業用水リサイクルの取り組み ・水道配管破損箇所の修理 ・子メーター管理及び節水の推進	0.73 m ³ /t 以下	0.97 m ³ /t	67.8	114.9 (2009)	103.5	C	・主力製品の受注減少、地下貯水槽からの漏水が影響し、生産重量当たりの水使用量増加 ・工業用水リサイクルの取り組みは定着 ・子メーター管理や老朽化配管の点検、整備の継続取り組みが必要	・散水や製造設備の洗浄等に工業用処理水の活用を継続 ・水使用量削減の取り組みを継続
事務用品の グリーン調達率向上	・事務用品購入実績の確実な把握 ・グリーン調達率向上への取り組み	86.0 %以上	99.3 %	115.4	158.1 (2009)	106.8	A	・グリーン調達の取り組みは定着	・事務用品購入実績の確実な把握及び、グリーン調達率向上への取り組みを継続
スラッジ有効活用による産業廃棄物削減	・スラッジ混合路盤材の生産量拡大への検討・販売 ・環境衛生資材「床カラッと12」販売	1,500 t 減	1,163 t 減	77.5	177.2 (2020)	95.5	C	・物価高による顧客の買い控え等もあり目標未達であるが、削減量の実績は初年度の2倍	・3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進の取り組みを一層強化、産業廃棄物の委託処理費削減の取り組みを継続
環境関連法令の 遵守徹底	・内部監査の実施 ・チェックリストの活用 ・グループ会社の過去の不適切事案共有	違反件数 ゼロ	違反件数 ゼロ	100.0	100.0	100.0	A	・環境法令の不知や理解不足による環境法令違反や不適切な対応を防ぐため、継続取り組みが必要	・内部監査による遵守状況の確認・フォローを継続 ・チェックリストを活用し、定期的に遵守状況を確認 ・親会社主催の環境法令に関する取り組みを継続
【建設業】									
産業廃棄物 リサイクル率向上	・分別の徹底	96.0 %以上	100.0 %	104.2	101.0 (2011)	100.0	A	・分別の取り組みは定着	・分別を徹底し、リサイクルの取り組みを継続 優良産廃処理業者認定を取得した処理業者を優先に選定
建設資材の グリーン調達率向上	・建設資材購入実績の確実な把握 ・グリーン調達率向上への取り組み	86.0 %以上	100.0 %	116.3	101.0 (2013)	100.0	A	・グリーン調達の取り組みは定着	・建設資材購入実績の確実な把握及び、グリーン調達率向上への取り組みを継続
【産業廃棄物処理業】									
受託回収した産業廃棄物リサイクル率向上	・分別の徹底 ・再生骨材の利用促進	96.0 %以上	100.0 %	104.1	100.0 (2011)	100.1	A	・分別の取り組みは定着 ・ポール付属品、路盤材活用による取り組みは定着	・分別を徹底し、リサイクルの取り組みを継続 ・再生骨材の利用促進の取り組みを継続

注) m²は床面積、tは生産重量、人は事務所人員数を示す

(3) 2023年度事業活動による環境負荷量(事業別)

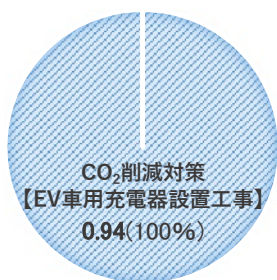
[]内は2022年度実績

	製造業	建設業	産業廃棄物処理業
事業活動	生産量(千t)	工事件数(件)	受託回収した産業廃棄物の処理量(t)
	コンクリートポール 38.4 [38.7]	鉄塔基礎工事 35 [89]	受入量 11,669 [12,095]
	地中製品 4.4 [4.0]	電力管路工事 89 [82]	破砕量 11,669 [12,095]
	古紙リサイクル率(%) 100.0 [100.0]	建築・土木 構造物基礎工事 62 [62]	再資源化量(t) 路盤材、原材料 10,724 [11,176]
	その他工事 119 [95]	リサイクル業者に再委託(t) 廃プラスチック 6 [16]	
		形鋼材 939 [903]	
	産業廃棄物リサイクル率(%) 100.0 [100.0]	産業廃棄物リサイクル率(%) 100.0 [100.0]	産業廃棄物リサイクル率(%) 100.0 [99.9]
資源投入量	エネルギー使用量	エネルギー使用量	エネルギー使用量
	電力(万kWh) 181 [180]	電力(万kWh) (本社事務所) 0.46 [0.27]	電力(万kWh) 3.8 [3.8]
	A重油(kℓ) 421 [417]	ガソリン(kℓ) (発電機) 2.2 [2.4]	軽油(kℓ) 56 [54]
	軽油(kℓ) 18 [20]	軽油(kℓ) (重機等) 2.4 [3.7]	水使用量(千m ³)
	その他(kℓ) 3.8 [3.8]	資材使用量(t)	0.5 [0.4]
	水使用量(千m ³)	セメント 3,799 [7,294]	
	コピー用紙使用量(万枚)	生コンクリート 948 [378]	
	109 [119]	防錆塗料 0.7 [0.5]	
	化学物質取扱量(t)	鋼材 11 [32]	
	メチルナフタレン 5.0 [5.0]	エネルギー使用量	
キシレン 0.2 [0.2]	電力(万kWh) (本社事務所) 11.40 [11.40]		
	ガソリン(kℓ) (リース車) 44.8 [45.8]		
	軽油(kℓ) (リース車) 16.2 [18.2]		
環境負荷量	二酸化炭素排出量 (t-CO ₂) 1,825 [1,817]	二酸化炭素排出量 (t-CO ₂) 198 [208]	二酸化炭素排出量 (t-CO ₂) 159 [152]
	産業廃棄物処分量(t) 0.0 [0.0]	産業廃棄物処分量(t) 0.0 [0.0]	最終処分量(委託)(t) 2.4 [13.1]
	化学物質排出量(t) 0.4 [0.4]		

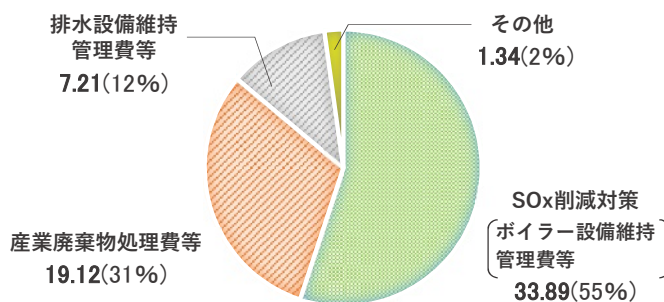
(4) 2023年度環境活動コスト（実績）

① 投資額

設備投資[0.9 百万円]



活動費用[61.6 百万円]



② 主要エネルギーのコスト削減効果

(百万円)

項目	前年度比(2022年度比)	基準年度比(2009年度比)
電力	+0.4	+13.4
A重油	+0.3	△ 7.7
水	+0.4	+ 1.5
計	1.1 増加	7.2 増加

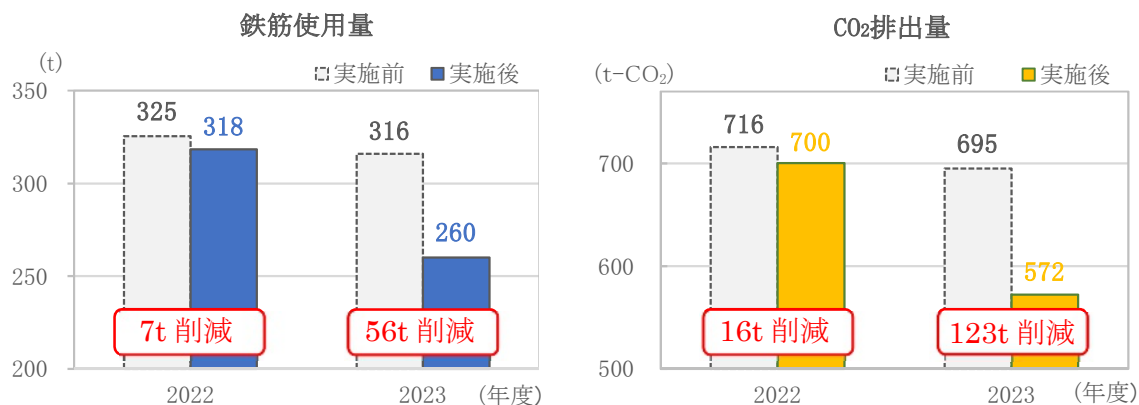
※原単位換算で算出

(5) 2023年度会社収支への貢献 ～脱炭素化への取り組み～

コンクリートポール鉄筋使用量の削減(削減費用＝営業利益の増)

2021年度より九電ポールの配筋見直しに着手。性能を維持しつつ鉄筋使用量を削減したコンクリートポールを段階的に開発(九電ポール 12 品種 23 年 7 月完了、NTT ポール 14 品種 24 年 3 月完了)し、2023 年 2 月から順次量産開始。2024 年度以降は一般向けへ展開予定。

→原材料コストを大幅に削減。使用量削減により、鉄筋製造で排出される二酸化炭素排出量を抑制。



(6) 2023年度環境取り組みの成果

エコアクション21 オブザイヤー2023

環境経営レポート部門「優良賞」受賞

一般社団法人持続性推進機構主催のエコアクション 21 オブザイヤー2023 において、環境経営レポート部門の「優良賞」を受賞。「マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針として表に取りまとめていること」「2022 年度会社収支への貢献として、新たなコンクリートポール開発による鉄筋削減量及び CO₂ 排出削減量が数字で示していること」等が評価された。



(7) 2023年度地域貢献活動

九電グループ4社合同地域貢献活動



2023年11月21日(火)、九電グループ4社合同地域貢献活動として、塩原中央公園の清掃活動を行いました。この活動は、福岡市南区所在の九州林産(株)、九電テクノシステムズ(株)、九州電力(株)総合研究所と企画しているもので、今回で5回目となります。

今回は、前回(2023年3月27日実施)の52名より大幅に参加者が増え、全体で87名、当社からは29名と過去最大の人数で実施することができました。本活動は、地域に所在する一企業として、地域への貢献と九電グループのイメージ向上を目指し、今後も本活動を継続していきます。

各事業所の地域貢献活動

- 本 社 本社周辺の清掃活動(1回/週)
違反広告物撤去・清掃活動(1回/年)
- 熊本工場 工場周辺の清掃活動(1回/年)
工場周辺の草刈(5回/年)
道の駅旭志除草作業(1回/年)
- 豊前工場 工場周辺の清掃活動(1回/年)



本社周辺違反広告物撤去・清掃作業



熊本工場の清掃活動



豊前工場の清掃活動

(8) EV車両の導入

当社では、「カーボンニュートラル」実現のため、社有リース車のEV化を推進しています。2023年度はEV車両「PHEV」(2台)とEV充電設備(2台)を導入しました。2024年度以降もEV車両の導入を推進し、環境への取り組みを通じて社会に貢献していきます。

【PHEV車両の特徴】

- ・ハイブリット車を進化させ、バッテリーに充電することにより電力での走行が可能。
- ・通常は電気のみで走行。充電がなくなるとガソリンで走行。
- ・近距離はEVモードのみで走行が可能となり、ハイブリット車に比べ、二酸化炭素の排出量が低減。
- ・非常時に役立つ電源を装備。災害などの非常時に電源として、電気製品の使用が可能。



(9) 2023年度環境関連法規の遵守状況

- ・環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果、当社事業に適用される環境関連法規への違反なし。
- ・関係機関からの違反の指摘や、利害関係者からの訴訟等なし。

主な法規制の名称		チェックした内容	評価
環境一般	工場立地法	特定工場、生産施設、緑地	○
	公害防止管理者法	公害防止統括者及び公害防止管理者の選任	○
地球環境	地球温暖化対策推進法	事業活動に伴う排出抑制、排出量の報告	○
	省エネ法	エネルギー使用状況	○
	フロン排出抑制法	事業者の責務、保守点検、大気中への放出禁止	○
	オフロード法	使用の制限	○
廃棄物・リサイクル	廃棄物処理法	事業者の責務、保管基準の遵守 許可業者への委託、委託基準の遵守、マニフェスト管理	○
	建設リサイクル法	再資源化等の遵守、実施状況の記録・保存・報告	○
	自動車リサイクル法	再資源化預託金等の預託義務	○
	家電リサイクル法	収集・再商品化に対する費用負担	○
	小型家電リサイクル法	分別排出、適切な引き渡し	○
大気騒音振動	大気汚染防止法	ばい煙発生施設等の届出、公害防止管理者等の届出、 排出規制基準の遵守・測定・記録	○
	騒音規制法	特定施設の届出、規制基準の遵守	○
	振動規制法	特定施設の届出、規制基準の遵守	○
水質土壌	水質汚濁防止法	特定施設等の届出、排水規制基準の遵守、総量規制	○
	浄化槽法	浄化槽設備の届出、未処理水の放流禁止、水質基準、 水質検査、保守点検	○
化学物質	P R T R 法	化学物質管理指針に基づく管理、排出量・移動量の届出	○
	毒物・劇物取締法	毒物又は劇物の取扱及び表示	○

9. 産業廃棄物処理業に関する情報

(1) 産業廃棄物処理施設

項目	熊本工場		豊前工場
事業施設の種類の 産業廃棄物の種類	産業廃棄物埋立処分(管理型) 汚泥	がれき類の破砕施設 がれき類	がれき類の破砕施設 がれき類
処理能力	埋立地: 12,152 m ² 埋立容量: 60,557 m ³	160.0 t/日(8時間)	97.6 t/日(8時間)
許可番号	第埋-014号	第中-226号	第457号
許可年月日	1994年9月9日	2012年5月10日	2010年1月22日

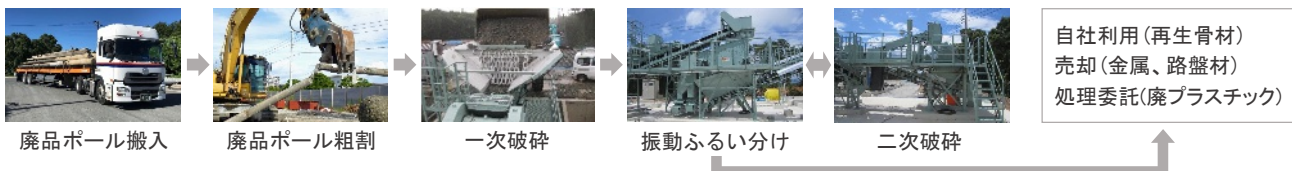
(2) 広域認定制度

項目	内容
産業廃棄物の種類	当社製造のコンクリートホールの 産業廃棄物となったもの
処理区域	全国
許可番号	第199号
許可年月日	2010年12月8日

(3) 産業廃棄物処分量

項目	熊本工場	豊前工場
事業の範囲	中間処理(破砕)	中間処理(破砕)
産業廃棄物の種類	ガラスくず、がれき類	ガラスくず、がれき類
処理方式	ジョークラッシャー方式	油圧スクリーンクラッシャー方式
許可番号	04325008997	04020008997
許可年月日	2023年9月26日	2022年2月21日
有効期限	2028年9月25日	2027年2月20日

(4) 処理工程図



10. 2024年度環境経営目標

(1) 2024年度環境経営目標

項目	2024年度目標	目標設定の考え方	(参考) 2023年度目標
【製造業】			
オフィス電力使用量削減	8.69kWh/m ² 以下	直近3ヶ年度実績平均値▲1%	7.66kWh/m ² 以下
工場等の電力使用量削減	41.8kWh/t以下	前年度目標値▲1%	42.2kWh/t以下
低公害車の導入	71.0%以上	継続目標として取り組み	71.0%以上
ガソリン消費率向上	13.5km/ℓ以上	継続目標として取り組み	13.5km/ℓ以上
A重油使用量削減	9.60ℓ/t以下	前年度目標値▲1%	9.70ℓ/t以下
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取り組み(中長期目標)	96.0%以上
古紙リサイクル率 100%	100.0%	継続目標として取り組み	100.0%
用紙使用量削減	946枚/人以下	前年度目標値▲1%	956枚/人以下
オフィス水使用量削減	0.53m ³ /人以下	前年度目標値▲1%	0.53m ³ /人以下
工場等の水使用量削減	0.72m ³ /t以下	前年度目標値▲1%(中長期目標)	0.73m ³ /t以下
事務用品のグリーン調達率向上	86.0%以上	継続目標として取り組み(中長期目標)	86.0%以上
スラッジ有効利用による産業廃棄物削減	1,500t 減 (再生路盤材原料に活用)	継続目標として取り組み	1,500t 減 (再生路盤材原料に活用)
環境法令違反及び環境事故の防止徹底	違反件数ゼロ	継続目標として取り組み	違反件数ゼロ
【建設業】			
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取り組み(中長期目標)	96.0%以上
建設資材のグリーン調達率向上	86.0%以上	継続目標として取り組み	86.0%以上
【産業廃棄物処理業】			
受託回収した産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取り組み	96.0%以上

※ m² は床面積、t は生産重量、人は事務所人員数を表す

(2) 2024年度活動内容

地球環境問題

- ・ 中長期計画等に基づく高効率機器(空調機器・照明設備・ボイラー燃料転換等)の計画的更新
- ・ コンクリートへの亜硝酸塩混入によるCO₂吸着等CO₂有効活用の取り組み
- ・ コンクリートスラッジのCO₂吸収固定に向けた取り組み

循環型社会形成

- ・ 「コンクリートロス低減」「スラッジ無害化処理による環境衛生資材へ再使用」「スラッジ再生路盤材原料としての資源活用」を中心とした3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進を一層強化

地球環境の保全

- ・ 環境保全設備の適切な運用(環境法規に関する測定の徹底[濃度・排出量・騒音・振動])

環境管理の推進

- ・ 環境関連法規等の特定及び管理表に基づく確実な遵守評価の実施

SDGsの推進

- ・ 「マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針」について各事業へ展開(P.5 に掲載)

1 1. 代表者による全体評価と見直し

(1) 2023年度活動の総括

環境経営方針に基づく環境経営計画の策定及び実績の管理、環境関連法規等の遵守状況のチェック、教育・訓練の実施等に加えて、それらの活動状況の公開も継続的に実施しており、環境経営の取り組みは定着していると評価しています。

主な取り組みとしては、主要管理項目16項目のうち、11項目については目標を達成しました。未達項目の内、特に重点を置いて取り組む項目については以下の通りです。

- ① 「オフィス電力使用量」については、従業員の体調や作業効率を考慮したエアコンの使用と感染予防対策等、安全衛生面を優先したものであり、やむを得ない事由によるものでした。取り組み意欲を高めるためにも、実態に即した目標値に見直すよう指示しました。
- ② 「工場上水使用量」については、生産重量の減少及び地下貯水槽からの漏水が大きく影響しました。漏水箇所については3月に改修しており、2024年1/4期時点では大幅に改善しており、今年度は達成見込みであります。
- ③ 「コンクリートスラッグの有効利用による産業廃棄物削減」については、チャレンジングな目標を設定し取り組んでいますが、物価高による顧客の買い控え等もあり未達となりました。原料としての有効利用の促進と、販路拡大に努めるよう指示しました。

(2) 2024年度の取り組み

2024年度は、「マテリアリティ及び中期ESG推進方針」を踏まえ、「製品素材や製造時の低炭素化・脱炭素化の推進」や「CO₂吸収固定可能なコンクリート製品開発(外部機関と共同研究)」等、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを一層推進します。

省エネルギーについては、老朽化したA重油炊き炉筒煙管ボイラーをガス炊き式小型貫流ボイラーに変更することについて経済性等も考慮して導入を引き続き検討していきます。ボイラー燃料をA重油から都市ガス等に転換することで、生産重量当たりのCO₂排出量約10%の削減効果が得られる見通しであります。

また、当社の二酸化炭素総排出量は2009年度から比較すると、約60%削減しております。これも、従業員一人ひとりに環境負荷低減への意識が根付き、愚直な取り組みの成果だと感じています。引き続き、作業環境や作業能率に配慮し、地球環境との調和を目指して事業活動に伴う環境負荷の低減に努め、環境に優しい企業を目指していきます。

1 2. 主な受賞歴

【環境経営レポート】

主催：NPO 法人 九州環境カウンセラー協会

- 2013年 第6回廃棄物部門賞
- 2014年 第7回九州地方環境事務所長特別賞
- 2017年 第10回エネルギー部門賞
- 2019年 第12回大賞
- 2020年 第13回九州環境経営賞
- 2021年 第14回九州地方環境事務所長特別賞
- 2022年 第15回環境パフォーマンス賞

【環境コミュニケーション大賞】

主催：一般財団 法人地球・人間環境フォーラム

- 2020年 第23回 環境経営レポート部門 優良賞

【福岡県エコ事業所】

主催：福岡県

- 2021年 「地球にやさしい活動部門」 優秀賞

【エコアクション21 オブザイヤー2023】

主催：一般財団法人持続性推進機構

- 2023年 環境経営レポート部門 優良賞

本レポートについてのご意見・お問い合わせ先

九州高圧コンクリート工業株式会社

環境管理責任者

環境管理担当者

取締役常務執行役員 業務本部長 尾形 聖一

業務本部総務グループ長 森下 志朗

業務本部総務グループ 中村 敏彰

HP用二次元コード



TEL (092) 554-6650 FAX (092) 554-6702 <https://www.kyuatsu.co.jp/>

2024年8月1日発行